

2024年10月10日
愛知県美術館
プレスリリース



パウル・クレー展

創造をめぐる星座

1.18^{2025.}_{sat} — 3.16_{sun}

「この世では、私を理解することなど決してできない。なぜなら私は、死者たちだけでなく、未だ生まれざる者たちとも一緒に住んでいるのだから。」

パウル・クレーのこの言葉は、1920年にクレーの作品を売り出した画廊の販売戦略に用いられて、孤独に瞑想する芸術家としての彼のイメージを広めました。たしかにクレーの作品は謎めいているかもしれませんが、同じ時代を生きただけの多くの前衛芸術家たちと同様に、クレーもまた、仲間たちと刺激を与え合ったり、夢を共有したりしながら、困難な時代を生き抜いたひとりの人間でした。

クレーは、人生の根源的な悲劇性と向き合いながら、線と色彩によって光を呼び起こし、抽象のなかに生命のエネルギーを描き出しました。その作品は、歴史的な文脈のなかに置かれることで、また新たな姿を見せることでしょう。本展では、スイスのパウル・クレー・センターとの学術協力のもと、クレーと交流のあった芸術家の作品との比較や、当時の貴重な資料の参照を通じて、多くの人や情報が構成する星座=コンステレーションのなかでクレーを捉え直し、その生涯にわたる創造の軌跡をたどります。



この展覧会はパウル・クレー・センター
の学術協力のもと開催しています。



▲ AICHI ARTS CENTER

展覧会名 | パウル・クレー展——創造をめぐる星座
Paul Klee, Solitary and Solidary
会 期 | 2025年1月18日(土)ー3月16日(日) [50日間]
開館時間 | 10:00ー18:00 金曜日は20:00まで(入館は閉館の30分前まで)
休 館 日 | 毎週月曜日(ただし2月24日[月・振休]は開館)、2月25日(火)
会 場 | 愛知県美術館(愛知芸術文化センター10階)

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
美術館ウェブサイト <https://www-art.aac.pref.aichi.jp/>
アクセス | 地下鉄東山線・名城線「栄」駅/名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、
オアシス21連絡通路利用徒歩3分

チケット | 一般 1,800 (1,600) 円
高校・大学生 1,200 (1,000) 円
中学生以下無料

※()内は前売券および20名以上の団体料金です。

※上記料金で本展会期中に限りコレクション展もご覧になれます。

※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳(愛護手帳)、特定医療費受給者証(指定難病)のいずれかをお持ちの方は、各券種の半額でご観覧いただけます。また付き添いの方は、各種手帳(「第1種」もしくは「1級」)または特定医療費受給者証(指定難病)をお持ちの場合、いずれも1名まで各券種の半額でご観覧いただけます。当日会場で各種手帳(ミライロID可)または特定医療費受給者証(指定難病)をご提示ください。付き添いの方はお申し出ください。

※学生・生徒の方は当日会場で学生証(生徒手帳)をご提示ください。

平日限定券

一般シングル券 1,300円 一般ペア券 2,400円

当日券よりもシングル(1枚)で500円、ペア(2枚)で1,200円もお得にご観覧いただけるチケットです。会期中平日のみ有効・枚数限定。

※平日限定券は一般のみとなります。

※ペア券はご購入時に2枚発行されます。同日、もしくはそれぞれ異なる日でもご覧いただけます。

[販売期間] 2024年11月1日(金)～ 上限枚数に達し次第、販売終了

[販売場所] Boo-Woo(ブーウー)チケット、ローソンチケット(Lコード:46491)、
チケットぴあ(Pコード:687-102)

クレー展×フォロン展 ダブルチケット

一般 3,000円

本展のチケットと、名古屋市美術館「空想旅行案内人 ジャン=ミッシェル・フォロン」(2025年1月11日[土]～3月23日[日])のチケットが1枚ずつセットになったチケットです。枚数限定。

※本券は一般のみとなります。

※ご購入時に各展覧会のチケットが1枚ずつ発行されます。同日、もしくはそれぞれ異なる日でもご覧いただけます。

[販売期間] 2024年11月1日(金)～ 上限に達し次第、販売終了

[販売場所] Boo-Woo(ブーウー)チケット、ローソンチケット(Lコード:46492)、
チケットぴあ(Pコード:687-104)

主 催 | 愛知県美術館、中日新聞社、東海テレビ放送
協 賛 | DNP 大日本印刷、アイシン
後 援 | JR 東海
学術協力 | パウル・クレー・センター
特別協力 | 東京国立近代美術館

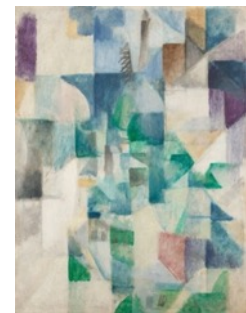
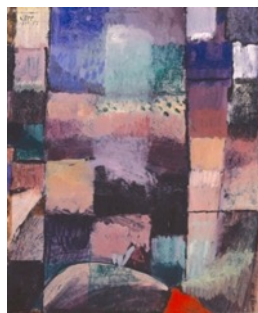
巡回情報 | **【兵庫展】**
会 期 2025年3月29日(土)～5月25日(日)
会 場 兵庫県立美術館

【静岡展】
会 期 2025年6月7日(土)～8月3日(日)
会 場 静岡市美術館

問合せ先 | 愛知県美術館 TEL 052-971-5511 (代)

■パリの色彩とチュニジアの光

1914年の春、線描を主な表現手段としてきたクレーは、友人の画家ルイ・モワイエとアウグスト・マッケとともに訪れたチュニジアにおいて、《チュニスの赤い家と黄色い家》などの色彩豊かな作品を描き始めます。クレーが滞在中の日記に書き残した「色彩が私を捉えたのだ」という言葉は、この旅行が彼にとって重要な転回点となったことを示しています。とはいえ、チュニジアの光だけが画家クレーを生み出したわけではありません。その少し前から、彼はフランスの同時代の美術への関心を強め、特にドロローネーの《街の窓》の「バッハのフーガ」を思わせる音楽のような抽象性を賞賛していました。チュニジアから戻った直後にクレーが描いた《ハマメットのモチーフについて》は、まさにこのドロローネーの作品を想起させます。



パウル・クレー 《チュニスの赤い家と黄色い家》1914年 パウル・クレー・センター
パウル・クレー 《ハマメットのモチーフについて》1914年 バーゼル美術館
ロベール・ドロローネー 《街の窓》1912年 石橋財団アーティゾン美術館

■戦争の破壊と希望

クレーがチュニジアの旅行から戻って間もなく、ヨーロッパは第一次世界大戦へと突入していきます。クレーも参加したミュンヘンの国際的な前衛芸術家のグループ「青騎士」のメンバーの一部は、母国への帰国を余儀なくされ、ドイツ国籍のマッケとフランツ・マルクは自ら従軍して命を落としました。マルクの戦死の知らせを受けた1916年3月、クレーも徴兵を受けて従軍します。戦争の先に希望を見た友人たちの死、前線から伝えられる戦争による破壊、そして自らの従軍を経て、クレーは戦争に対する態度を複雑に変化させ、それは作品の制作に反映されていきました。戦時中に行われた自作の切断と再構成、暴力と恐怖の抽象的な表現、そして《アフロディテの解剖学》や《紫と黄色の運命の響きと二つの球》に認められる神話的な世界への接近は、戦争との関連なくして語ることはできません。



パウル・クレー 《アフロディテの解剖学》1915年 宮城県美術館
パウル・クレー 《紫と黄色の運命の響きと二つの球》1916年 宮城県美術館
フランツ・マルク 《冬のバイソン（赤いバイソン）》1913年 バーゼル美術館

■シュルレアリスムの先駆者クレー

アンドレ・ブルトンが1924年の『シュルレアリスム宣言』において、クレーをシュルレアリスムの先駆者のひとりとして位置づけたように、第一次世界大戦後のフランスにおいて、シュルレアリスムの詩人や芸術家たちは、彼の作品に着目していきました。クレーがシュルレアリストを自称し、その活動に積極的に加わることはありませんでしたが、《小道具の静物》に描かれた、人知れず生命を帯び始める舞台倉庫の道具の姿や、《周辺に》に示される植物の細部が見せる驚異的な姿への関心は、シュルレアリストたちとクレーとの接近を物語っています。また《闘っているポップとロック》は、シュルレアリスムの雑誌『ミノトール』を通じた、クレーによる彼らの作品の受容を示唆しています。



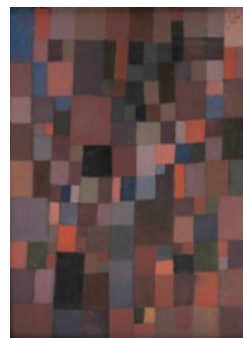
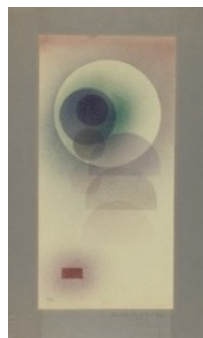
パウル・クレー 《小道具の静物》1924年 パウル・クレー・センター

パウル・クレー 《周辺に》1930年 バーゼル美術館

パウル・クレー 《闘っているポップとロック》1930年 パウル・クレー・センター

■バウハウスという共同体

1919年にヴァイマルに設立されたバウハウスの初代校長ヴァルター・グロピウスは、総合芸術としての建築を目指すこの学校に、前衛芸術家たちの参加が不可欠であると考えました。グロピウスからの招聘を受けて、1921年にクレーは同校の教育を担う中心的な存在である「マイスター」に就任します。翌年には、かつて青騎士の中心的存在であったヴァシリー・カンディンスキーも同僚となり、ここで2人は再会を果たしました。同僚たちとの意見の相違や度重なる学校の方針転換は、バウハウスを議論の絶えない場としました。しかし、単なる学校という存在を越えた共同体としてのバウハウスにおいて、《蛾の踊り》や《赤、黄、青、白、黒の長方形によるハーモニー》に示されるように、クレーの作品は色彩をその駆動力としながら、様々な展開を見せていきます。



パウル・クレー 《蛾の踊り》1923年 愛知県美術館

ヴァシリー・カンディンスキー 《緑に向かって》1928年 パウル・クレー・センター（リヴィア・クレー寄贈品）

パウル・クレー 《赤、黄、青、白、黒の長方形によるハーモニー》1923年 パウル・クレー・センター

■出品作について

- ・愛知会場には約 100 点の作品・資料が出品されます。クレーの出身地であるスイスのパウル・クレー・センター、バーゼル美術館のほか、日本国内各地の美術館からクレーの作品 50 点以上が集結します。
- ・《チュニスの赤い家と黄色い家》、《窓のあるコンポジション》などのクレーの代表作のほか、《ハマメットのモチーフについて》、《周辺に》などの日本初公開となる作品が展示されます。
- ・ヴァシリー・カンディンスキーのほか、アウグスト・マッケ、フランツ・マルクなどこれまで日本では紹介される機会の少なかった、クレーと交流のあった重要な芸術家の作品が展示されます。

■関連イベント

スライドトーク（学芸員による展示説明会）

1月25日（土） 11:00～11:40

2月8日（土） 11:00～11:40

2月21日（金） 18:30～19:10

3月1日（土） 11:00～11:40

会場：アートスペース A（愛知芸術文化センター12階）

定員：180名

※事前申込不要・聴講無料。開始時刻に会場にお集まりください。

■図録

『パウル・クレー展 創造をめぐる星座』

[執筆] 黒田和士（当館学芸員）、奥田修（パウル・クレー・センター研究員）、前田富士男（慶應義塾大学名誉教授）、後藤文子（慶應義塾大学教授）、白鞘南海（当館学芸員）

[発行] 中日新聞社

「パウル・クレー展」広報用画像申込書

※ご掲載にあたっての注意事項

- ・本展広報用画像の使用は、展覧会の紹介を目的としたものに限りさせていただきます。ご使用可能期間は本展覧会終了までです。
- ・ご使用の際は別紙のキャプション情報（作家名、作品名、制作年、所蔵者名、画像クレジット等）を全てご掲載ください。
- ・画像は全て全図でご使用ください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねることはできません。
- ・展覧会情報の確認のため、校正原稿を以下の問い合わせ先に FAX またはメールでお送りください。
- ・掲載誌（紙）、録画 DVD 等を事務局宛に 1 部ご恵贈願います。ウェブ媒体の場合は掲載 URL をお知らせください。

ご希望の画像番号： _____

媒体名： _____

ジャンル： _____

掲載・放送予定日： _____

貴社名： _____

ご担当者名： _____

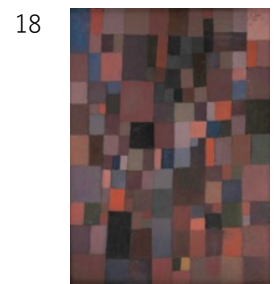
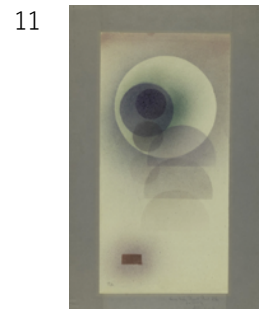
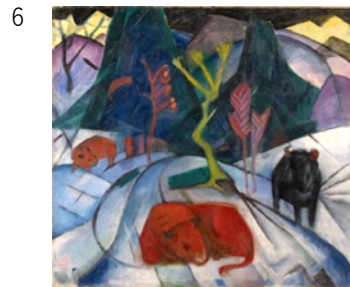
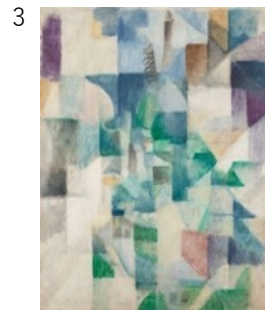
E-mail： _____

所在地：〒 _____

電話： _____

問い合わせ先／校正原稿等の送付先
展覧会に関するお問い合わせ
愛知県美術館（担当：黒田、白鞠）
〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2
TEL: 052-971-5511（代）／FAX: 052-971-5604
E-mail: art11@aac.pref.aichi.jp

「パウル・クレー展」 広報用画像



1. パウル・クレー 《チュニスの赤い家と黄色い家》 1914年 パウル・クレー・センター
2. パウル・クレー 《ハマメットのモチーフについて》 1914年 バーゼル美術館
3. ロベール・ドロネー 《街の窓》 1912年 石橋財団アーティゾン美術館
4. パウル・クレー 《アフロディテの解剖学》 1915年 宮城県美術館
5. パウル・クレー 《紫と黄色の運命の響きと二つの球》 1916年 宮城県美術館
6. フランツ・マルク 《冬のバイソン（赤いバイソン）》 1913年 バーゼル美術館
7. パウル・クレー 《小道具の静物》 1924年 パウル・クレー・センター
8. パウル・クレー 《周辺に》 1930年 バーゼル美術館
9. パウル・クレー 《闘っているポップとロック》 1930年 パウル・クレー・センター
10. パウル・クレー 《蛾の踊り》 1923年 愛知県美術館
11. ヴァシリイ・カンディンスキー 《緑に向かって》 1928年 パウル・クレー・センター（リヴィア・クレー寄贈品）
12. パウル・クレー 《北方のフローラのハーモニー》 1927年 パウル・クレー・センター（リヴィア・クレー寄贈品）
13. ルイ・モワイエ 《アラビアのベリーダンス》 1914-15年 ベルン美術館
14. アウグスト・マッケ 《明るい家（第1版）》 1914年 ベルン美術館
15. パウル・クレー 《都市の境界》 1926年 宇都宮美術館
16. パウル・クレー 《窓のあるコンポジション》 1919年 パウル・クレー・センター
17. パウル・クレー 《殉教者の頭部》 1933年 パウル・クレー・センター（リヴィア・クレー寄贈品）
18. パウル・クレー 《赤、黄、青、白、黒の長方形によるハーモニー》 1923年 パウル・クレー・センター